

第11回 勝福寺寶燈展 「木工芸の美と上品なうつわ」の開催に寄せて

勝福寺寶燈展の開催を前にして、先ず、元日に石川県能登地方の大地震で犠牲になられた方々に衷心よりお悔やみを申し上げますと共に、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。そして、一日も早い被災地の復旧復興をお祈りいたしております。

本題に戻ります。日本人の美意識が培ってきた伝統文化を今に生かし、後世に伝える一助になればと平成22年より提唱を続けております寶燈展はこのたび5年ぶりに11回目の開催の運びとなりました。

今回は、昭和初期に活躍した偏刀彫の名手で木彫師の平賀石泉氏（倉敷市出身/1882-1959）、そして昭和中期より平成期に活躍した割り物の木工芸家で岡山県重要無形文化財の林鶴山氏（倉敷市出身/1927-2018）、昭和平成に活躍した2人の情熱に着目したいと思います。さらに、暮らしを愉しむ上品なうつわも併せて展示いたします。

昨今は生活様式が昔とは随分異なり、私たちの身の回りには工業製品が氾濫しています。芸術家として、或いは美食家としても著名な北大路魯山人（1883-1959）は「食器は料理の着物」という名言を残しておりますが、上品な「うつわ」に盛られた料理は誠に美味しそうですね。これはうつわに限らず、心のこもった道具に接することで何より全ての生命に対して慈しみの心が芽生えてくるのではないのでしょうか。

さて、私は鶴山氏ご夫妻（御令室さまは令和4年没）とは生前中に深い親交を賜りました。作品の秀作や、特に平成11年の勝福寺駐車場用地（参道東側）の買収の際には費用の全額をご寄進いただくなど大変な支援者でもありました。私の父も鶴山氏とは一層親しい間柄で、私が3歳の頃から氏の邸宅によく連れて行って貰ったことが機縁となり、成長の過程において氏の世相への鋭い洞察力や豊かな美的感覚に触れていく上で、やがて心の師と仰ぐようになりました。

一方、石泉氏は鶴山氏が若かりし頃に余技の南画（文人画）を教えた恩師であり、偏刀彫の作品に用いる木地の制作を鶴山氏に依頼していたようです。2人の年齢差は45歳、鶴山氏は恐らく石泉氏から多くの教訓を得たに違いありません。今回は両氏の作品に加え、南画もご高覧いただきたいと思います。

皆さまには是非、俗世から解放された寺という静寂な空間で、ノスタルジックな美の粋を深く感じていただけましたならば有難く存じます。

また、当日は屋内におきまして勝福寺子ども茶道教室（小学生の部）によるお茶席の併設さらに屋外では、有志による「うどん」のお接待（雨天の場合は中止）を予定しております。

最後に、寶燈展の開催にあたりましては、ご協力を賜りました檀信徒並びに関係者各位に厚く御礼を申し上げ、皆さまのご健康とご多幸をご祈念しまして開催のご挨拶といたします。

合掌

令和6年3月吉祥日

徹林山勝福寺住職（第26世） 江原義空 拝



その他
近々の
諸行事

- ・花まつり（灌仏）…4月8日（月）8：30～12：00まで
※お花を一輪お持ちください。※あま茶のお接待があります。
- ・開講24年 勝福寺仏教講話 / 令和6年度受講生様募集中
（5月11日開講～翌年3月まで全15回程度 / 1回200円）
内容：在家勤行次第「おかんき」※詳細はお尋ねください。



真言宗 御室派

徹林山 勝福寺

吉備四国霊場第75番

〒710-1201 総社市久代3438

TEL：0866-96-0615

FAX：0866-96-2233